

## 2019年度事業報告

### 1. 国内関係（規定、環境問題、製品安全など）

#### （1）高圧ガス保安法関係

- ① 国連の危険物等海上輸送国際基準検討委員会において欧州エアゾール連盟（FEA）及び米国家庭用品協会（HCPA）から共同で「50℃での最大許容圧力を 15bar とする」が提案されています。高圧ガス保安室に状況を報告すると共に、国内で上記提案を審議する危険物 UN 対応部会に出席し経過を注視しています。
- ② JIS S 3301「エアゾール等製品の試験方法」は、2018年5月21日に制定されました。JIS 制定化を受け高圧ガス保安室に対し、高圧ガス保安法施行令関係告示改正要望及び高圧ガス保安法施行令関係告示第4条第3号チ、リの取扱注意（警告表示）の運用解釈の見直しの申し入れを行っております。

#### （2）「防水スプレーの吸引事故」関係

防水スプレーの吸引による事故が増加しています。厚生労働省化学物質安全対策室からの要請により、日本エアゾール協会は次の対応を取りました。

- ・エア協メールにて会員に「防水スプレーの事故防止対策のお願い」（自己点検）を発信。
- ・エア協ホームページの news & topics に「防水スプレーの吸引事故に注意」を掲載。

また、日本エアゾール協会では、エアゾール市場要覧（エアゾール産業新聞社刊行）記載の販売会社、製品名を基に昨年9月以降の生産品について防水スプレーの自主基準遵守状況を会員企業対象に調査しました。

調査結果：

- ・調査数 128品（国内生産品 107品、海外生産 中国製3品、ドイツ製18品）
- ・調査数 128品の内、92品はエアゾール市場要覧記載、36品は調査対象企業自己申告
- ・国内生産分 107品の内、廃版5品、1年以上生産なし20品を除き82品について自主基準を遵守していることが確認できた。
- ・海外生産分については、今後入手し調査の予定。

#### （3）エアゾール製品処理対策協議会（関連13団体）の活動

##### ① エアゾール製品の使用や廃棄方法などの広報関係

- ・公益社団法人全国都市清掃会議・定時総会（川崎市 5月22,23日）の展示コーナーに参加。
- ・東京消防庁多摩消防署主催-危険物安全週間「ふれあい防災フェスタ」（6月5日）の展示コーナーに参加。
- ・北海道帯広市からの依頼「令和元年度帯広市消費者講座」に参加（6月14日）し、エアゾール製品の正しい使い方・正しい廃棄の仕方」について講演（約60名出席）。
- ・公益社団法人全国都市清掃会議「令和元年度秋季評議委員会、臨時総会」（四日市市、10月24日）の展示コーナーに参加。
- ・芳香消臭脱臭剤協議会総会にて講演「エアゾール製品処理対策協議会の活動」（11月18日）
- ・全国都市清掃会議地区協議会研修会に参加し、DVDを上映し、出席者全員に配布。

九州地区協議会（10月24日） 36枚配布

近畿地区協議会（1月14日） 105枚配布

- ・大阪府泉大津市「海洋ごみについて知ろう！スポ GOMI 大会 in いずみおおつ」の展示コーナーに参加・中身残留缶の出し切り方実演(12月15日)。
- ・第41回全国都市清掃研究・事例発表会(豊橋市 1月22, 23日)の展示コーナーに参加。

② 国、自治体等との意見交換

- ・環境省との面談「高槻市で発生した爆発事故に関連して」(7月12日)
- ・東京二十三区清掃一部事務組合と面談(8月2日)し、使用済みエアゾール缶の廃棄につきまして意見交換を行いました。
- ・公益社団法人全国都市清掃会議を訪問(8月21日)し、広報の実績について報告し、意見交換を行いました。
- ・東京消防庁訪問(9月6日)し、広報記事にガス抜きキャップについて記載を依頼しました。

③ 広報記事執筆

- ・(一財)日本環境衛生センターの依頼で機関紙「生活と環境5月号」へ「エアゾール製品の適切な廃棄方法について」執筆。

④ 独立行政法人 国民生活センター 商品テスト分析・評価委員会へ委員派遣

- 「スプレー缶製品、カセットボンベによる事故の防止策」について調査検討を目的とします。日本エアゾール協会から委員を派遣しております。

引き続き日本エアゾール協会はエアゾール製品処理対策協議会事務局として、このような講座を活用し消費者や自治体への廃棄などの広報活動を進めてまいります。

(4) 地球温暖化防止関係 (HFC-134a、HFC-152a のダストブローア製品の削減)

自主行動計画に基づき、対象ガスの集計を行い、経済産業省オゾン層保護等推進室へ提出しております。

フロン排出抑制法による指定製品(ダストブローア等)は、環境影響度10を達成する最終年度(2019年)となっております。地球温暖化対策連絡会(メンバー:充填ローダー等)では、「ダストブローア製品は、今後ノンフロン化とする」合意が得られ、エッセンシャルユース製品については、製品調査を行い、エッセンシャルユース製品の絞り込み、自主基準の改廃を検討しております。

引き続きこの件に関し、経済産業省オゾン層保護等推進室に協力してまいります。

(5) 合同会議関係 (当協会；地球温暖化対策連絡会、技術委員会)

- ・第19回合同会議(8月7日)を開催し、日本ハネウエル株式会社による講演「HFO技術による、安全性と環境性を両立させる新しいエアゾールの可能性」と、第55回国連危険物輸送専門家小委員会、防水スプレーの吸引事故について、地球温暖化ガスに関する自主行動計画による取組み、産業構造審議会フロン類等対策WG報告、エアゾール製品処理対策協議会の活動に付き説明を行いました。
- ・第20回合同会議(2月5日)を開催し、化学製品PL相談センターによる講演「製造物責任と製品安全～事例から見る製品事故の背景(エアゾール製品を中心に)～」と、国連危険物輸送専門家小委員会、防水スプレーの自主基準遵守状況について、今後の地球温暖化対策の取組みについて、エアゾール製品処理対策協議会の活動、AAF会議・ILC会議及び付帯するイベントに付き説明を行いました。

## 2. 海外関係

本年は、国際エアゾール組織【FEA(ヨーロッパ)、HCPA(米国)、FLADA(中南米)、AAF(アジア)】との連携の一環で、ILC 会議(International Liaison Committee)を東京、幕張メッセ国際会議場で開催し、併せて AAF 会議(Asian Aerosol Federation)も開催しました(10月30日)。

また、国際会議開催に伴い、以下のイベントも開催しました。

- ・工場見学ツアー(10月28日)  
東洋エアゾール工業(株)三重工場、東洋製罐(株)滋賀工場見学(海外来訪者 24 名参加)。
- ・インターナショナルフォーラム(10月29日)  
循環型社会の実現と技術革新の両立をメインテーマに、エアゾール製品の技術開発・廃棄・リサイクルをサブテーマに、内外から8名の講演がありました(120名参加)。
- ・ウエルカムディナー(10月29日)  
ニューオータニ幕張にて内外のエアゾール業界関係者が集い、懇親を深めました(123名参加、内、海外 31名、国内 92名)。

### (1) AAF (Asian Aerosol Federation) 関係

アジアエアゾール連盟(AAF) 第9回総会が、豪州(議長国)、日本、中国、タイ、インド、ニュージーランドの6カ国の参加により開催(10月30日)され、日本エアゾール協会は副議長国として参加しました。

主な協議事項は下記のようにしております。

(ア) 加盟各国協会からの報告(生産数量、トピックス)

(イ) 新規加盟国

具体的検討を始めたマレーシアが有力候補で、インドネシア、ベトナム、韓国もオブザーバー資格で参加しました。

(ウ) 会長国に日本、副会長国にタイを選出しました。

(エ) 次回会議は香港の予定でしたが政情不安のため不可。候補地は、インド、中国となっております。

業界のグローバル対応は益々活発化しており、パンパシフィックでの連携は重要度を増しております。引き続き AAF における活動を推進して参ります。

### (2) ILC(International Liaison Committee) 会議関係

ILC 会議は FEA、HCPA、FLADA、AAF から代表者が参加し年に一度開催されている。本年は、東京、幕張メッセ国際会議場にて開催(10月30日)、日本も AAF の一員として出席しました。

主な協議事項は下記のようにしております。

(ア) エアゾール関連の試験方法の調和化

予てより検討していた次の試験方法について、業界ガイドラインとして合意されました。

・Filled aerosol packs – Measurement of the internal pressure 内部圧力の測定

・Filled aerosol packs – Measurement of discharge rate 噴射量の測定

今後は、FEA 及び HCPA で使用している試験方法の中から2つの試験方法を選び検討することになります。

(イ) エアゾール共通用語辞書

(ウ) エアゾールに係る SI 単位の変換表

(エ) 循環経済とリサイクル

(オ) 詰め替え可能なエアゾール

- (カ) 世界の缶の要件
- (キ) 最大圧力の増加に関する国際論文
- (ク) プラスチックエアゾール
- (ケ) VOC 問題
- (コ) キガリ改正／HFC 削減
- (サ) 事故の共有
- (シ) 次回開催国 ポルトガル・リスボン 2020 年 9 月 25 日

(3) 2019 年 ILC 会議及び AAF 会議開催準備委員会

2019 年に ILC 会議及び AAF 会議を開催すると共に、講演会、懇親会、工場見学を開催しました。準備委員会を立ち上げ準備を行いました。

(4) 輸入エアゾール製品の「試験成績書」発行業務

当協会は、高圧ガス保安法一般高圧ガス保安規則第 45 条の 3 項、製造細目告示第 12 の 16 に基づく、輸入エアゾール製品の高圧ガスに関する適用除外要件の確認試験を行い「試験成績書」発行業務を 2019 年度も引続き行いました。

(5) 輸入エアゾール製品の検査結果

当協会で行っている 2019 年度の輸入エアゾール製品の検査結果は下記となりました。

	検査件数	月平均数
2012 年度	615	51
2013 年度	535	45
2014 年度	590	49
2015 年度	506	42
2016 年度	511	43
2017 年度	467	39
2018 年度	472	39
2019 年度	400	33